

想定と 課題

冬季オリンピック・パラリンピックを もし、札幌で開催するとしたら？

ここでは、札幌で開催する場合に想定される大会規模や実施する競技を紹介。
また、招致・開催する際に取り組みべき課題をお伝えします。

オリンピック

4年に一度の世界的なスポーツの祭典。冬季大会には90年以上もの歴史があります。

大会期間／17日間(2月開催)
参加選手／2,800人 参加国・地域数／88
競技数／7競技98種目 観客数／125万8千人

主な競技

(写真提供：アフロ)



【他にも】スピードスケート、ボブスレー、リュージュ、アイスホッケーなど



ソチオリンピック
スキージャンプ ラージヒル個人 銀メダリスト
かさい のりあき
葛西 紀明 選手からのメッセージ

世界中のアスリートにとって夢の舞台であるオリンピックには、街全体を独特の熱気と興奮で包み、国籍や人種の違いを越えて、観る人に感動を与える力があります。地元である北海道・札幌で開催されることで、冬季スポーツが、皆さんにとってより身近なものになるとうれしいです。

パラリンピック

世界最高峰の障がい者スポーツ大会。4年に一度、オリンピック終了直後に同じ場所で開催されます。

大会期間／10日間(3月開催)
参加選手／550人 参加国・地域数／45
競技数／5競技72種目 観客数／21万5千人

主な競技

(写真提供：アフロ)



【他にも】車いすカーリング



ソチパラリンピック
バイアスロン ショート 銅メダリスト
くぼ こうそう
久保 恒造 選手からのメッセージ

競技によっては激しいぶつかり合いがあったり、義足の選手が急斜面を猛烈なスピードで滑り降りたりと、見ていて心が揺さぶられる場面がたくさんあります。身体にハンディがあっても、あきらめずにプレーする姿を通して、市民の皆さんと夢や希望を分かち合えたらいいですね。

招致・開催には課題もあります

Q. 札幌で全ての競技を開催できるの？

A. オリンピックは1都市での開催が原則ですが、滑降など一部のスキー種目では、基準を満たす会場が市内にはなく、市外での実施を想定しています。その他の競技は、今後、開催計画を策定する時点で、具体的に検討する必要があります。

Q. そもそも、2026年大会を目指す理由は？

A. 前回の札幌開催から40数年が経ち、当時建てられた競技施設などの多くが更新の時期を迎えます。施設が生まれ変わるこの時機を最大限に活かすため、最短で招致申請が可能な2026年大会を想定しています。

Q. 札幌が招致を決めれば、すぐに立候補できるの？

A. 現在、2018年の平昌(韓国)に続く2022年大会の都市選考が行われています。北京、オスロ、アルマトイが立候補しており、来年7月に決定する予定。札幌市は、2022年が続けてアジアの都市に決まるかどうかなども考慮しながら、日本オリンピック委員会などと協議していく必要があります。